

# 抜き打ちロックアウト

## 内ゲバ理由に18日から6日間

### 抗議行動を展開

#### 和泉では正門を實力突破

一八日、大学当局は「六月一八日(木)より二三日(火)まで全学休校とし、各校舎出入口は閉鎖します。詳細はテレビ・マンサービスで承知願います」の新聞広告を掲示にやめてしまった。突然にロックアウトを行なった。

それと知らずに登校した学生はその告示板と「最近、学内外で他大生を含む一部分の学生の暴力行為、業務妨害等が頻発している状況にかんがみ」といふ告示によって、締め出された。

こうして大学当局のロックアウトに対し、本校、和泉、生田各地区においてつめかけた学生の抗議集会が開かれた。和泉地区では一〇〇人近くの学生が集まり、ハ平澤、反荷学院、Mなどを中心として運動集会を開き、十一時三十分正門の鉄扉を實力で解除した。しかし、かけつけた運動隊に逮捕され、五名が公務執行妨害で送検された。

一方、生田地区では、正門にロックアウトしたものの、生田運動セクト間の主導権争いによる暴力

から、学生が縛りと登校し、九時頃約二〇〇人の学生が、高木工学部長を囲み追及集会を行ない、十二時頃集会を終えた。また本校では五時頃から抗議集会も千名行進が行なわれた。

このよちな事情について、大学当局はロックアウトの理由を「学生諸君への文書で「最近「安泉」の自衛延長をめぐり、学内外において一部の学生の過激な行動が、学生生活セクト間の主導権争いによる暴力

行為が頻発」といってをあげている。しかしながら、それが決して「安泉」の自衛延長をめぐった「問題」ではなかったことは明らかといえる。その点において十八日から二十三日までのロックアウトはいかにきつても不可解という再が強い。また、十五日の生田における「運動隊」の学生による生田学生運動隊に対する「因交」要求を迫ったことをあげているが、これについてもこれは東闘争の一環であり、そうして

とてみれば、そのよちな期間はいかに納得のいかぬものであるばかりか、明らかに「六月安泉」を機に起る「因交」運動への準備であり、本校であるといわれても仕方がない。大学当局がそれに「力の論議」を認めるといふ態度が、はしなくも今度の「ロックアウト」運動によって、自らの「力の論議」をもってしなだめたいことを露呈したとみるべきが多い。そして、学生間に不信を築いた事は事実である。

なから納得のいかぬものであるばかりか、明らかに「六月安泉」を機に起る「因交」運動への準備であり、本校であるといわれても仕方がない。大学当局がそれに「力の論議」を認めるといふ態度が、はしなくも今度の「ロックアウト」運動によって、自らの「力の論議」をもってしなだめたいことを露呈したとみるべきが多い。そして、学生間に不信を築いた事は事実である。

なから納得のいかぬものであるばかりか、明らかに「六月安泉」を機に起る「因交」運動への準備であり、本校であるといわれても仕方がない。大学当局がそれに「力の論議」を認めるといふ態度が、はしなくも今度の「ロックアウト」運動によって、自らの「力の論議」をもってしなだめたいことを露呈したとみるべきが多い。そして、学生間に不信を築いた事は事実である。

なから納得のいかぬものであるばかりか、明らかに「六月安泉」を機に起る「因交」運動への準備であり、本校であるといわれても仕方がない。大学当局がそれに「力の論議」を認めるといふ態度が、はしなくも今度の「ロックアウト」運動によって、自らの「力の論議」をもってしなだめたいことを露呈したとみるべきが多い。そして、学生間に不信を築いた事は事実である。